

平成30年度

経営発達支援事業 評価・見直し結果報告書

1. 評価機関名 美深町商工会 経営発達支援委員会
2. 開催日時 平成31年 3月26日(火) 18:00～
3. 開催場所 SUN21 中会議室
4. 出席者
 - (1) 委員 美深町商工会 会長 園部一正
美深町商工会 副会長 山崎晴一
美深町商工会 副会長 齊藤和信
美深町商工会工業部会 部会長 齊藤宏行
美深町商工会サービス部会 部会長 中西忠幸
美深町商工会青年部 部長 小野寺一真
美深町商工会女性部 部長 藤川 幹
美深町観光協会 会長 山崎晴一(兼務)
美深町役場総務課企画グループ 主幹 中江勝規
北星信用金庫美深支店 支店長 木全哲也
 - (2) 事務局 美深町商工会 事務局長 長谷川浩
美深町商工会 経営指導員 山本真悟
美深町商工会 補助員 齊藤裕樹

5. 内容

定刻となり、事務局が開会を宣し、園部商工会長が開会挨拶を行った後、議事に入る。

(1) 経営発達支援計画及び伴走型小規模事業者支援推進事業について

事務局は、平成30年6月1日に認定を受けた経営発達支援計画及び認定計画において交付を受けて実施した伴走型小規模事業者支援推進事業の概要説明を行った。

(2) 平成30年度事業報告について

事務局は毎年度、認定計画の実施状況を国へ報告すること及び経営発達支援事業の評価・見直しを行う仕組みとして、本委員会によりPDCAを機能させていくことを説明した。

平成30年度において、経営発達支援事業を推進していく為に実施した伴走型小規模事業者支援推進事業の実施状況は以下のとおり。

①地域経済動向の調査に関すること

<取組内容>

巡回訪問で景況、売上、資金繰りや採算のほか、ヒヤリングシートを活用し後継者問題や事業承継について聞き取り調査を行った。

地域経済産業調査、最近の経済動向、中小企業景況調査、全国中小企業動向調査へ掲載された情報を収集分析し、巡回訪問時に情報提供を行った。

商工会青年部・JA青年部美深下川支部・及び行政担当者による「美深町特産品開発研究視察研修事業」を実施し、両青年部が連携した特産品の開発研究について先進地の視察を行い、今後の農商連携の活動について懇談した。また、日本政策金融公庫旭川支店担当者との懇談会を開催し、地域の経済情報についての意見交換を行った。

・ヒヤリングによる調査	目標：18件	実績：24件	評価：A
・統計調査の分析	目標：4件	実績：4件	評価：A
・懇談会開催による情報収集	目標：2件	実績：2件	評価：A

<検証結果>

日々感じている経営上の悩みをはじめ、事業承継に対する考え方や方向性を把握することができた。

巡回訪問等において分析した資料の提示を行うことで、事業所に地域の状況を理解していただくことができたが、ホームページや会報を活用するなど、様々な方法で情報提供する工夫も必要である。

金融機関との懇談により、利率・融資状況・設備投資など金融に関する動向についての情報を把握することができた。

②経営状況の分析に関すること

<取組内容>

ヒヤリングシートを用いて巡回訪問による調査を行った事業所や、確定申告等決算を行った事業所、及び融資・新規創業・各種補助申請に必要な事業計画策定を行う小規模事業者に対し、経営分析と財務分析を実施した。また、「ネットde記帳」など分析ツールを活用した財務分析、外部専門家と連携した経営分析を行った。

・経営分析・財務分析数	目標：18件	実績：24件	評価：A
・巡回による訪問指導	目標：68件	実績：76件	評価：A

<検証結果>

これらの取り組みを通し、小規模事業者が抱える景況、財政、人材、後継者等に対する様々な問題を把握することができた。年4回定期的に巡回訪問を行い、この情報を重要資料として活用することで、小規模事業者に対して深く入り込んだ支援や今後の事業展開に有効な事業計画の策定に結びつけることができた。

引き続き、巡回時のヒヤリングや決算データの把握を通じて事業計画策定の重要性について理解をしてもらい、自社の経営状況を踏まえた事業計画策定に結びつくよう支援する。

③事業計画策定支援に関すること

<取組内容>

事業計画を作成した経験や必要性を感じていない小規模事業者に対し、その意識改革と事業計画策定の必要性を再認識してもらうため、中小企業診断士等の専門家や関係支援機関と連携し、事業計画策定セミナー及び個別相談会を開催した。

ヒヤリングシートで調査した経営動向及び事業承継に関する調査結果を活用し、後継者問題を抱える小規模事業者に対して計画的な巡回訪問を実施し、事業承継を円滑に進めるための支援を行った。

・セミナー開催数	目標： 1 件	実績： 1 件	評価： A
・個別相談会開催数	目標： 2 件	実績： 2 件	評価： A
・事業計画策定支援数	目標： 1 8 件	実績： 2 2 件	評価： A

<検証結果>

策定セミナー受講者のうち、新規創業や事業の見直しを目指した事業者が個別支援を受け、事業計画の策定を行った。策定した事業計画をもとに、美深町が制定した創業・多角化に関する助成制度「商工業担い手支援条例」を活用すべく行政に計画書を提出した。

また、同条例の事業承継に対する支援策を活用した事業計画を策定することにより事業承継を円滑に行い、小規模事業者の経営安定を図ることができたが、親族間における事業承継が難しくなっていることから、従業員や第三者等への事業譲渡も視野に入れた中長期的な計画を策定できるかどうか課題である。

引き続き、新規創業や事業多角化、事業承継をはじめ事業の持続的発展のための事業計画策定に向けた支援を継続する。

④事業計画策定後の支援に関すること

<取組内容>

事業計画を策定支援した小規模事業者に対し経営指導員等の巡回訪問や窓口相談を通して定期的にフォローアップを行った。

・フォローアップ企業数	目標： 1 8 件	実績： 2 0 件	評価： A
-------------	-----------	-----------	-------

<検証結果>

事業計画策定後の事業実施及び進捗状況を確認、効果の検証を行うとともに伴走型の助言や指導を行うなど、経営指導員を始め全職員が自己研鑽を図

りながら一丸となって小規模事業者の持続的発展を支援した。また、「商工業担い手支援条例」や「小規模事業者持続化補助金」等を利用した新たな事業展開に向けた支援を行い安定的な経営を図ることができた。

引き続き定期的なフォローアップを行い、策定した事業計画の遂行状況を把握し、実績とのギャップを分析し新たな経営計画策定に早期に対応する。

⑤需要動向調査に関すること

<取組内容>

美深町の地域資源を活用し、インターネット販売等を通じた販路開拓を自社で行っている小規模事業者を対象とし、経営分析や事業計画策定、新たな販路拡大や商品開発につなげるための需要動向調査を行った。

また、経営の動向を把握するため定期的に実施している「経営動向調査」についての調査を行った。

・ 個社の取り扱う商品に対する需要動向調査 (企業数)	目標： 2 件	実績： 2 件	評価： A
・ 展示、商談会におけるヒアリング (対象企業数)	目標： 2 件	実績： 2 件	評価： A
・ アンテナショップにおけるアンケート調査 (回数)	目標： 2 件	実績： 2 件	評価： A
・ 消費者モニター会議 (回数)	目標： 6 件	実績： 6 件	評価： A
・ 消費動向調査	目標： 調査提供	実績： 調査提供	評価： A
・ 各種機関による消費動向・需要動向調査の収集分析・提供 (企業数)	目標： 7 件	実績： 8 件	評価： A

<検証結果>

既に自社で独自の販路開拓を行っているものの、売りたい気持ちが先行して販売促進の具体的な方法がわからないという小規模事業者に対し、商品の持つ強み・弱みを再認識し、改良改善を加えたり、新たな付加価値をもった製品開発を行っていくため、取り扱う商品等に焦点を絞った需要動向調査を行い、売り手の思いと、消費者が求める商品とのギャップを分析し、需給のミスマッチを解消するよう支援した。

経営の動向に対する現状を調査項目として設定し、業況、経営上の課題、それに対する解決手法、今後の経営動向について調査分析し、小規模事業者へ情報を提供した。

また、今後の事業承継に対する事業継続予定、後継者の有無、事業承継に向けた具体的な準備、第三者への営業譲渡を含む事業承継への考え方等について調査分析し、小規模事業者へ情報を提供した。

道内や全国の消費者の求める売れ筋商品等トレンドなどの動向を、内閣府「消費動向調査」をはじめとした統計情報を活用して把握し、巡回訪問等を通して個社の取り扱う商品やサービス等に合わせて情報を提供した。

⑥新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

<取組内容>

小規模事業者の既存品の販売促進、新商品の開発及び販路開拓と認知度の向上を図るため、札幌圏、首都圏等アンテナショップへの出展、展示・商談会等への参加、インターネットを活用した販路拡大等について小規模事業者に対して出展支援を行った。

・商談会・展示会等への出展支援者数	目標： 2件	実績： 2件	評価： A
・アンテナショップ等への出展支援者数	目標： 1件	実績： 1件	評価： A
・商談会・展示会・アンテナショップ等における商談成立件数	目標： 2件	実績： 2件	評価： A
・「SHIFT」活用した販路拡大支援者数	目標： 3件	実績： 3件	評価： A
・インターネットを活用した売上増加目標数	目標： 1件	実績： 2件	評価： A
・特産品販路開拓支援者数	目標： 1件	実績： 1件	評価： A

<検証結果>

地域資源を活用した商品を販売している小規模事業者に対し首都圏で開催された「なまらいいっしょ北海道フェア2018」及びアンテナショップ「どさんこプラザ」や首都圏で開催された「北海道フェア」等への出展支援を通じて美深町の地域資源特産品の販路開拓と認知度の向上を図ることができた。フェア出店時には職員が同行し、消費者ニーズや商品のマーケット状況についての情報収集を図るためのアンケート調査を実施した。また、バイヤー等へのヒアリングなどのアプローチや商談支援を行い販路開拓にもつながった。

地域資源を活用した商品を販売している小規模事業者に対し、インターネットを利用した販路拡大事業として既存のホームページのリニューアルを実施した。また先に説明した「北海道フェア」にて、事前に専門家からのアドバイスを受けながら作成したパンフレットを配布して新ホームページに誘導することにより、閲覧数の増加と販路拡大につなげるよう支援した。

引き続き消費や市場の動向を確認し、商品のブラッシュアップを図り、展示会及び商談会、インターネットを活用した新たな販路を開拓し、小規模事業者の売上増加及び利益率の向上につながるよう支援する。

⑦地域経済の活性化に資する取組み

<取組内容>

小規模事業者による商店街づくりや賑わいづくりを推進して地域の活性化を図るとともに、新規創業を通して移住定住の促進を行い町内人口の維持を目指すなどの対策を実施した。

・移住定住等支援	目標： 1件	実績： 1件	評価： A
・商店街活性化事業開催回数	目標： 8件	実績： 8件	評価： A
・地域特産品販路拡大事業支援数	目標： 7件	実績： 7件	評価： A
・ビジネスマッチング等支援数	目標： 3件	実績： 3件	評価： A
・地域イベント事業開催数	目標： 4件	実績： 4件	評価： A
・地域イベント事業来場者数(人)	目標： 4,500人	実績： 4,900人	評価： A

<検証結果>

美深町が実施している創業者への支援策を活用して新規創業及び雇用の促進による移住定住を促進した。

また、消費拡大活性化・飲食店の振興を図ることを目的として、夜市・各種売出事業・プレミアム商品券発行事業を実施した。

地域資源を活用した新商品の開発及び販路拡大事業として町内外で開催された各種イベント等開催時への出展支援を行った。

引き続き小規模事業者の売上向上と地域経済及びまち全体の活性化につながるよう継続して支援する。

⑧他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

<取組内容>

関係支援機関との情報交換を積極的に推進し、小規模事業者に対する総合的な支援体制の確立を図り、経営分析、事業計画策定や需要開拓及び販路開拓に関する高度な専門的ノウハウを習得した。

・支援機関との連携と情報交換	目標： 2件	実績： 2件	評価： A
・金融機関との連携と情報交換	目標： 4件	実績： 5件	評価： A
・商工会関連との連携と情報交換	目標： 8件	実績： 9件	評価： A

<検証結果>

北海道信用保証協会旭川支店との懇談、北海道中小企業診断士会など支援機関との連携を通じて新しい施策の情報や支援に対する取り組み事例などの情報を交換し、事業計画の策定・実施や販路開拓等につながるようなノウハウを吸収した。

日本政策金融公庫旭川支店との連携を通じてマル経融資や各種制度融資の活用による小規模事業者の金融支援対策についての情報を交換した。

美深町・中川町・音威子府村商工会が連携している天塩川中部商工会広域連携協議会等を通じて支援ノウハウ、支援の現状、問題解決手法について情報交換を図った。

引き続き外部機関との情報交換によってノウハウを吸収して支援能力向上を図り、円滑な経営発達支援事業実施を継続して実施する。

⑨経営指導員等の支援能力向上の取り組み

<取組内容>

内部機関及び外部機関主催の研修会へ積極的に参加し、知識の習得及び支援能力の向上を図った。また、それらによって吸収した支援スキルを、職員間で共有する仕組みを構築した。

<検証結果>

職種別の研修及び職場内研修の実施により経営課題の把握と問題解決に向けた事業計画策定による小規模事業者の持続的な発展を行うために必要なスキルと高度な知識・技能・支援ノウハウを習得した。これらの取組で習得した支援ノウハウについて経営カルテシステムを活用して職員間で共有することにより、小規模事業者の抱える諸課題解決に迅速に対応できるよう全職員でチームによる一貫した支援体制を整えた。

引き続き課題解決に向け商工会職員の能力向上を図り、支援を継続して実施する。

⑩事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

<取組内容>

経営発達支援計画に記載の事業実施状況及び成果について、外部有識者を交えて検証及び評価、改善を図る。

- ・事務局による検証
- ・経営発達支援委員会の評価・検証及び理事会での評価・見直し
- ・事業の結果報告及び公表

<検証結果>

引き続きP D C Aサイクルに基づいた評価・検証・見直しを継続実施する。

(3) 平成30年度事業計画及び予算について

事務局は別紙資料に基づき、伴走型小規模事業者支援推進事業を活用して平成31年度の事業の実施を計画している旨の説明を行った。

(4) 事業の評価・見直し結果の内容について

- ・外部有識者からの意見等は下記のとおり。

小野寺委員より、消費者モニター会議について、当初は食品製造業への支援を想定して計画しているが、それ以外の事業では実施すべき内容が違ってくるので支援企業の事業内容によって、柔軟に手段を変更して対応してはどうか。「SHIFT」活用した販路拡大支援については、情報提供するツールとしてホームページだけではなく、様々な手段があることから、「SHIFT」にこだわらず、SNSを含めたあらゆる手段を使っても良いのではないかと意見があった。他の委員もそれに賛同する意見があり、事業の見直しを行うこととした。

その他、意見等を求めたが発言はなく、評価委員会を閉会した。時に18時30分